

長野県埋蔵文化財センター ニュース

みすずから

平成 16 年 8 月 21 日発行

県下初 たてあなじゅうきよあと いしくしろ 竪穴住居跡から石釧が出土!

のびつけ 野火附遺跡

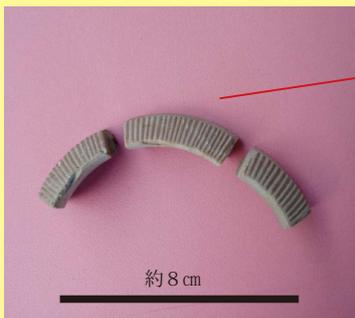
小諸市御影新田

広大な佐久平北部の台地上に所在する野火附遺跡では、4 世紀後半の竪穴住居跡から石釧の破片が 3 点出土しました。接合はしませんでしたが一物体と考えられます。石釧とは腕輪の形をした儀礼用の宝器の一種で、古墳の副葬品として用いられることが一般的なものです。県内での出土例は極めて少なく、未製品 2 点を含めて約 10 点ほどにすぎません。稀少な遺物であることはもちろんですが、今回の発見でなによりも驚くのは、古墳や祭場などからの出土が大半を占める中、竪穴住居跡から出土したことです。県内はもとより全国的にも竪穴住居跡から石釧が出土した事例はほとんど耳にしません。石釧の性格を考える上で貴重な資料になるものと期待されます。

(桜井秀雄)



遺跡からは浅間山が間近に見える



出土した石釧(左)と石釧が出土した竪穴住居跡(上)

千曲川の洪水と古代の集落

川久保遺跡

下水内郡豊田村大字豊津



遺跡遠景 千曲川の狭い谷間に遺跡はある

川久保遺跡の発掘調査は千曲川の堤防建設に伴うもので、川岸から約 100 m が調査範囲です。弥生時代の遺跡として知られていましたが、古墳時代と平安時代の竪穴住居跡 10 棟、掘立柱建物跡 2 棟が発見されました。現在は水田となっている川岸に、ムラの跡が残されていたのは予想外でした。これら

の竪穴住居跡は、弥生時代後期以降の洪水で堆積した砂の上に築かれており、住居の床の下には弥生時代の土器を含んだ層が確認されています。深いところでは、弥生時代以降の堆積層が 2 m 以上になるところもあります。

調査は 11 月まで続き、今後新たな発見が期待されます。(鶴田典昭)



平安時代の竪穴住居跡 (正面にカマドが見える)

ドキドキッ！～小学生の体験見学



黒曜石で作られた製品
釣り針？装身具？それとも？

東畑遺跡

(技術指導職員派遣) 東筑摩郡坂北村仁熊

7月5日、坂北小学校6年の児童23名が、村の整理室を訪れました。昨年の調査では、土器の洗浄作業を体験した子供たち。調査の様子と整理作業についての話を聞いた後、早速グループに分かれて土器の接合に挑戦です。

やってみるとなかなか着かないのが土器接合。次第に真剣な眼差しに変わっていきます。そのうち「ついたー。」という声が弾けました。「この模様はあっちにあったぞ。」「模様がすごくきれい。」土器を細かく観察している子もいました。



きっとこれはくつつくぞ……たぶん。石器の名前(用途)当てにも挑戦しました。

はるか5千年前、知恵と技術を駆使して筑北の谷に生きた先人たちが。社会科で学んだ縄文人が自分たちと同じ大地に暮らしていたことを実感してくれたようでした。(柳澤亮)

両手サイズの黒曜石を発見！

駒形遺跡

茅野市米沢北大塩

駒形遺跡は黒曜石の産地として有名な、霧ヶ峰の南麓に位置しています。黒曜石を運び出した道沿いにある、縄文時代前期～後期（今から約6000～3000年前）の大きな村があった場所と考えられ、1998年に多くの部分が国の史跡に指定されました。今年、史跡の南隣を発掘調査していて、縄文時代前期の土器や石器、黒曜石などがたくさん見つかっています。注目されるのは両手にのるほどの大きな黒曜石で長さ13cm、幅11cm、重さは1340gもあります。これだけ大きな黒曜石は、どの遺跡でもみつかるわけではありません。駒形遺跡の性格を考えるための、ヒントの1つになることでしょう。（賛田明）



両手サイズの黒曜石の原石



パズルのような接合作業

三角原遺跡は南安曇郡三郷村にある遺跡で、今から千年ぐらい前（平安時代）の竪穴住居跡が57軒みつかりました。土器の接合作業を進めていたところ、離れた竪穴住居跡の間で破片が接合する例が、30例ほどありました。破片は大小さまざまで、いろいろな焼物のお皿や壺が接合しています。

この理由についてははっきりしたことはわかりませんが、古い家があった場所のクボミを壊れた土器のゴミ捨て場に利用したり、新しい家を建てる際に出た土で古い家のクボミに埋めた時、土に混ざっていた土器片が移動す

整理作業室の窓から

離れた住居跡同士の土器破片が接合！

るのではないかと考えています。今後、これら事例の傾向を調べ、土器片が遺跡の中でなぜ動くのかを探っていききたいと思います。（広田和穂）



だんだん形になっていく古代の器

現地説明会

みねうたいざか

峯謡坂遺跡

千曲市八幡謡坂



調査補助員さんと一緒に発掘体験

さる6月26日(土)の午前10時から地元の方を対象に遺跡説明会を行いました。

当日は、埋蔵文化財の発掘の方法やその必要性をわかってもらうため通常の作業を行い、遺物が出土する瞬間などを見てもらいました。80名ほどの方が見に来てくれました。調査補助員さんに交じって実際に掘ってもらったところ、夢中になり、引率の先生に「さきに帰って」という小学生。また、「一度やって見たかった」という親子は、意外と簡単に土器が出ることに驚いたようで、記念として掘り出した土器とともに写真を撮っていました。

今回は説明会に加え、県立歴史館の企画・担当で、勾玉作りを行いました。予想以上に盛況で、年齢を問わず暑さを忘れて熱心に作っていました。

埋蔵文化財を身近に感じる事ができた1日であったと思われまます。(河西克造)



県立歴史館職員(川崎)から勾玉の作り方を教わる

一枚の写真から



ちからいしじょうり
力石条里遺跡(千曲市上山田力石)では、やよい弥生時代前期(およそ2500年前)のお墓の調査が始まりました。信州で稲作が始まった頃の様子がわかるかも知れません。写真は、お墓を覆う石を掘り出しているところ。

埋文告知板

長野県埋蔵文化財センター

ホームページたぐいま公開中

今年度から、センターのホームページが本格的に始動しました。現在調査中の遺跡の情報や、整理で解ってきたことなど、盛りだくさんです。是非ご覧下さい。

<http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>

図書室の開放・蔵書の閲覧について

埋蔵文化財センターには、県内外の発掘調査報告書や考古学関係の書籍はもちろん、関連分野の本や雑誌など豊富な蔵書があります。これらの図書の閲覧は下記の時間内で利用することができます。

午前8時30分～午後5時(土・日、祝祭日を除く)

野帳

猛暑の中、長野県内の各地で発掘調査が本格化してきました。発掘中の遺跡を見ることができる「現地説明会」も行いますので、HPや新聞等で日程をご確認ください。また、今年から本格的に立ち上がったHPでは、発掘の進行状況や整理事業の経過を逐一掲載しております。あわせてご覧いただければ幸いです。(寺内隆夫)

(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007

長野市篠ノ井布施高田963-4

TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157

E-mail maibun@grn.janis.or.jp